



『看護研究のための文献レビュー マトリックス方式』

著：Judith Garrard
訳：安部陽子
B5版・176ページ
定価：2,940円(本体2,800円+税5%)
発行：医学書院(TEL 03-3817-5657)

文献レビュー「マトリックス」空間で創造的な論文を作成

評者◎石原逸子 神戸市看護大学教授

筆者は、総説や研究論文の執筆、科学研究費の申請時に、当初集めておいた文献リストから必要な論文を探し出すのに戸惑うことが多い。また、文献リストを前にして、上手に分類化しいつでも使えるようにしたいと願ってはいるが、文献をまとめるために時間を割きたくないとも思っている。しかし、この本を読み進んでいくうちに、このような考えは間違いであることに気づかされ、また、いい論文を書くためには文献レビューのプロセスこそ省略してはならないという認識を新たにした。

書籍の中で、著者のGarrard氏は、「大学院を含めてどの段階の教育プログラムにおいても、文献レビューの体系的な整理方法と実施方法についての正式な授業はほとんどされていない」(p.5)ことを指摘している。確かに、日本の教育機関においても実態は同様である。本書は、この点について電子ベース方式で科学文献をレビューする方法を手ほどきしてくれる。具体的には、マトリックス方式として4つの文献レビュー基本ホルダーを活用し、特定のテーマに関する学術的な資料を読み、分析し、総括を書くことで文献レビューを完成される方法である。これらの基本ホルダーは、以下のように構成されている。①ペーパー・トレイル・ホルダー(どのようにして文献を検索したのかのメモ書きと場所記載)、②文書ホルダー(レビューに必要な文書をコピーやPDFファイルとして保管する)、③レビュー・マトリックス・ホルダー(②の文書を要約し集計表に必要な情報を記載する)、④総括ホルダー(文献レビューをまとめ執筆)

実際、マトリックス方式による4つの文献ホル

ダーと説明されても、実行に移してみないと理解することは難しいかもしれない。したがって、本書の9つの章には、「キャロラインの冒険旅行」として大学院生キャロライン・コリンズの修士論文の作成プロセスを紹介し、文献レビューにマトリックス方式をいかに活用していくかを、キャロラインの体験と、指導教授であるディカーソン教授との会話を通じてよりわかりやすく解説している。知的な探求に勇気と決意がいかに必要かを、キャロラインの経験を通じて読者は知ることになる。

この本が与えてくれるもう1つのメリットは、文献を自分のものにすることの意味を教えてくれる点である。つまり、読者は、一連のマトリックス方式のプロセスを介して、書こうとしている特定のテーマは、誰が最初に定義したどのような方法で研究され、このテーマに関する知見はどの程度積み重ねられ知的体系化されているのか、また何がいまだに調査されていないのかなどを把握でき、自分が取り組もうとしている研究内容やテーマに精通できる。このことは、優れた論文を書くための文献レビューマトリックス方式をつくりあげる最大のねらいでもある。

本書は、日本語の翻訳の際に、看護分野の読者を想定して翻訳されており、特に看護系大学の大学院生や医療従事者の方々には、体系的な文献レビューへの取り組み方法について実践的で実用的な方法を示してくれる解説書でもある。原文の方法論は、保健科学分野の医療職に広く適用されるように書かれているため、公衆衛生学、歯学、医学、薬学等幅広い分野でも活用できる。